

令和6年度 第2回諫早市認知症対策推進会議要旨

1. 日時：令和6年12月13日（金） 19：00～20：00

2. 場所：健康福祉センター 1階 多目的ホール

3. 内容

（1）報告

①認知症初期集中支援チームの活動報告について（R6.4月～R6.10月末）

- ・資料1及び当日配布資料を用いて説明。令和6年4月から10月末までの支援対象者概要について報告

【意見など】個別の事例についての質疑応答

②いさはやオレンジ2024を通じた認知症の普及啓発の取組みについて

- ・資料2を用いて説明。過去の推進会議での意見を参考に、世界アルツハイマー月間中（9月）に実施した普及啓発について報告

【意見など】特になし

（2）意見交換

『アンケートの結果から、認知症の普及啓発には、目に触れる機会を増やしていくと効果的と思われるが、各年代にどのような周知方法が考えられるか』

- ・報告②を基に、年代ごとの効果的な普及啓発方法について意見交換を行った。

【～10代】

- ・学校を通じた福祉学習、道徳の授業（市の出前講座、学校へマニュアル提供）
- ・授業参観やチラシ配布で親世代、祖父母世代への周知にも繋げる。
（帰ってから親に教えてあげてね、チラシを見てもらってねと声掛け）
- ・SOS 模擬訓練への参加（登下校の道中で行う）
- ・認知症4コマ漫画を活用する。

【30～50代】

- ・健康診断の機会に目に入るよう、医療機関にチラシの掲示、配付を行う。
- ・健診時、「大量の飲酒がある方には認知症のリスクがある」等、本人の状態

に応じて Dr や看護師から認知症に繋がる話をしてもらう。

- ・「親御さんを見ていてる方」「今後親御さんを看る方」など自分事になる見出し
- ・訪れる機会の多いスーパーにのぼりを設置

【60～70 代以上】

- ・定年を迎える今後の人生や自分の生活、体について考える時期
→「定年前のあなたへ」「60 代の皆さんへ」など、市の公式 LINE でターゲットを絞った見出しでアプローチ
- ・外に出て活動に参加し、自分で情報を得る人と引きこもる人の二極化。
引きこもる人こそ情報を届けたい対象
→スーパーのレジ、コンビニ、ATM など必ず訪れる場所へ掲示物を貼る。
- ・サロン、老人会等で講座（経験者談・寸劇）を行い自分事として知らしめる。
- ・テレビでの広報はお金がかかるが、高齢者はテレビをよく見る。

【共通】

- ・老若男女が集まるイベントでの周知。健康フェスティバルやながさきピース文化祭など既存の事業とコラボして、認知症チェックリストやクイズなど、ゲーム感覚で行えるものを取り入れる。
- ・市報、市の公式 LINE は 60 代以降の高齢者も含め広い年代が見ている。
- ・市報の特集ページで「若年性認知症」をテーマに、若い世代も引き付ける。
- ・市の公式 LINE の「週刊諫早」は「何かな？」とクリックさせる力があるので、見出しの参考にする。
- ・文章がいっぱいあっても見ない。ぱっと目に入る第一印象、衝撃的な見出しが大事。
- ・各年代ごとの会合時に出前講座を開催。小規模で膝を突き合わせて、近所の人同士話せるようにする。
(例) 老人会 (80 代)、自治会 (40～70 代)、消防団 (30～50 代)、婦人会 (50～70 代)、サロン、民生委員の定例会など
- ・介護施設と自治会がタイアップしている祭りで話す機会を設けてもらう。
- ・町内新聞を作成している所もあるので、周知に活用させて頂けないか相談する。
- ・ホームページは目的があって辿ることがほとんどなので、単独では見に行かない。(見てもらうためには市の公式 LINE からの誘導等が必要)
- ・ラジオは現役世代は通勤中に聞く。世代で効果的な時間帯が異なる。